

## 新工法で日韓トンネルの夢

### 硬軟両地層OK

三菱重工業とゼネコン大手の熊谷組は五日、さまざまな地層に一台の掘削機で対応でき、従来より長距離でも完全機械化で掘り進むことができるトンネル工法を開発したことを明らかにした。両社は「日韓海底トンネルのほか、都市再生事業での深い地底の掘削も可能」と夢を膨らませている。

三菱重・熊谷組

従来工法としては、山腹など、比較的固く深い地盤を掘る山岳工法と、海底など軟弱で浅い地盤用のシールド工法があるが、今回開発された「KM2 1TM」は、両工法の長所を統合したのが特徴。

具体的にはシールド用掘削機のカッターに、電子レンジの原理でマイクロ波を岩盤に当て粉碎する機能を付け、硬軟両方の地層に一台で対応できるようにした。

さらに、ボルトなどで地盤を安定させる山岳工法の手法も取り入れ、シールドの限界とされる六十メートル以上の深度でも掘り進めるといふ。掘削機の製作費は五十億円程度になるといふ。

日韓海底トンネルの計画が具体化してくれば、この新工法も検討対象になりそうだ。

# 東京新聞

発行所 中日新聞東京本社

東京都港区港南二丁目3番13号  
〒108-8010 電話 03(3471)2211